

2018年7月1日
59号

かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社製作所ひたちなか総合病院
〒312-0057
ひたちなか市石川町20番1
TEL 029 (354) 5111
発行人 飯嶋和秀
編集 広報委員会
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>

ごあいさつ



院長 吉井 慎一

6月に入って、寒暖の差が激しい日が続きましたが、皆様方は体調を崩すことなくお過ごしでしょうか。本誌が届けられるころには、サッカーワールドカップの

結果が出ていると思われませんが、前評判の悪かった日本代表は活躍できたでしょうか。

2018年度も3ヶ月が経過しましたが、本年度は医師数が減少した診療科があり、地域の皆様、医療機関にはご迷惑おかけしております。幸い皆様方の支援もあって、現在大きな患者数の減少はなく、職員全員が共通の意識を持って、地域医療に貢献するよう、がんばっているところです。医師確保は医療機関の重要な課題であり、来期に向けて信頼できる医師の確保に努めてまいります。

今年度は、第7次医療計画が策定され、遺伝子治療、再生医療等、高度な医療の推進の一方で、高齢化社会に向けて在宅医療・介護の供給体制の強化も挙げられています。在宅医療の充実のために、「退院支援」、「日常の療養支援」、「急変時の対応」、「看取り」の4つが重要とされています。これらを推進するためには、「アドバンス・ケア・プランニング (ACP)」

が大きな鍵を握っています。ACPとは、「今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセス」で、「いのちの終わりについて話し合いを始める」ことです。がんに限らず、事故や急死以外は、すべての人に必ず訪れます。医療機関だけでは解決できない問題であり、インターネットや書籍などで目を通していただければ幸いです。

地域医療構想では、現在医療圏での調整会議が進行中です。隣の医療圏である水戸地域の動向は、当院にも関係するところです。しかし、当院がひたちなか市を中心に、那珂市、東海村、常陸大宮市、常陸太田市にとって、地域密着型の急性期病院として重要な役割があることには変わりはありません。地域の医療機関と連携を深めるだけでなく、今後は他医療圏の医療機関との連携もより重要になると考えています。

最後になりますが、政府は「2025年度の基礎的財政収支（プライマリーバランス）黒字化」を「骨太の方針2018」のなかで掲げました。なかでも社会保障関係は重要で、今後3年間で、社会保障関係予算（医療費が含まれます）の増加を「高齢化による増加分に相当する伸び」の範囲に収める方針が出されました。医療・介護の効率化も重要ですが、国民の負担増も検討されます。このことに関しても、一人ひとりが自分の問題として考える時期ではないでしょうか。

ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

7月	日	月	火	水	木	金	土	8月	日	月	火	水	木	金	土	9月	日	月	火	水	木	金	土	10月	日	月	火	水	木	金	土	
	①	2	3	4	5	6	⑦						1	2	3	④							①							⑥		
	⑧	9	10	11	12	13	⑭		⑤	6	7	8	9	10	⑪		②	3	4	5	6	7	⑧	⑩	⑦	8	9	10	11	12	⑬	
	⑮	⑯	17	18	19	20	⑰		⑫	⑬	⑭	⑮	16	17	⑱		⑨	10	11	12	13	14	⑮	月	⑭	15	16	17	18	19	⑰	
	⑳	21	22	23	24	25	㉑		⑲	20	21	22	23	24	㉒		⑯	⑰	18	19	20	21	㉓	月	⑳	21	22	23	24	25	26	㉔
	㉒	㉓	24	25	26	27	㉔		㉒	㉓	㉔	㉕	26	27	㉖		㉔	㉕	26	27	28	29	㉗	月	㉕	㉖	27	28	29	30	31	
	㉕	㉖	28	29	30	31	㉕		㉕	㉖	㉗	28	29	30	31		㉖	㉗	28	29	30	㉘	月	㉖	㉗	28	29	30	31			

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日



泌尿器科



泌尿器科 山内 敦

2018年4月に赴任した泌尿器科の山内です。皆様よろしくお願ひします。
泌尿器科で扱う臓器は、尿路である腎、尿管、膀胱、尿道、そして男性生殖器である陰茎、前立腺、精巣です。副腎は腎臓のそばにあることから泌尿器科で扱います。泌尿器科の疾患としては各々の臓器のがん、尿路結石、尿路感染症、尿路発生異常（尿路奇形）、尿路の外傷、排尿機能障害など多岐にわたります。

泌尿器科の特徴としては、
当院が地域がん診療連携拠点病院であることから、がんの診療に重点を置いており、前立腺がん、膀胱がん、腎臓がん、腎盂尿管がんを扱う割合が多くなっているところです。

がんの早期発見・早期診断にも尽力しております。がんに対する治療法として、単に手術療法だけでなく放射線療法、化学療法、ホルモン療法や分子標的薬治療、免疫療法などを、それぞれの状況（病態や病期）に合わせて総合的に組み合わせた治療（集学的治療）を行っています。

がん治療以外では前立腺肥大症や尿路結石の治療にも注力しております。尿路結石に対しては、2018年4月から軟性腎盂尿管鏡と結石砕石用レーザー装置を導入し、経尿道的手術を尿管結石のみならず、腎結石まで適応を拡大して実施していく予定であります。2018年6月からは最新型の体外衝撃波結石砕石装置（ESWL）を導入しました。このように泌尿器科疾患が多岐にわたることから、皆様に常に最新・最善の医療を提供できるよう、日々鋭意努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。



2018年6月～導入した最新型の体外衝撃波結石砕石装置（ESWL）により、仰向けの楽な姿勢での治療が可能となりました。



2018年2月～尿流量測定装置が新しくなり、自然な排尿状態での測定が可能になりました。患者さんにとって、より良い環境づくりに努めます。

部門紹介



泌尿器科外来スタッフ

泌尿器科外来は看護師3名で、診察の補助や検査介助を行っています。

患者さんの気持ちに寄り添うことを心がけて、不安なく治療を受けていただけるよう日々努めています。



部門紹介



皮膚・排泄ケア認定看護師
大山 瞳

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、創傷・オストミー・失禁の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる看護師のことです。常陸太田・ひたちなか保健医療圏に唯一の皮膚・排泄ケア認定看護師として、日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会のコアメンバーとして、地域で「褥瘡創傷ケアを学びあう会」を開設しました。2025年には「本気で褥瘡ゼロ」をめざしています。毎月第3木曜日19時から当院で勉強会を開催し、現在約50施設の方々と楽しく学びあっています。

在宅褥瘡ケアは今・・・

褥瘡（床ずれ）といえばひと昔前は、予防には円座を用い、体位変換、創面は乾燥させるのが一般的でしたが、現在は創面を伸縮させるので用いないほうがよく、体位変換方法も「昔ながら」のバスタオルを用いる方法より「スモールチェンジ法」を推奨しています。創面は「適度の湿潤環境」が望ましく創傷被服剤の処方が可能になりました。

入院中は観察も兼ねて毎日処置しますが、在宅では褥瘡は慢性期の褥瘡となるため、感染兆候がなければ、処置は週2～3回が現実的になります。入浴サービスなどを利用している方が多く、このタイミングで全身を洗うのと一緒に褥瘡も洗浄してもらい、創傷被服剤を貼付すると効率よくケアができ治癒促進になります。

皮膚・排泄ケア認定看護師ができること

主治医の指示のもと訪問看護師または主治医施設の看護師とともに、自宅で褥瘡ケア、指導をします（医療保険で1285点+交通費）。褥瘡は、日常生活の中で発生するずれを低減することが重要です。本人・介護者が無理なく継続できる方法で褥瘡を改善していきます。



褥瘡回診・ケアスタッフ

地域の先生紹介

ますおか内科クリニック



● 当院の歴史と特徴

1990年からひたちなか市・東海村の病院に勤務していた関係で、2002年にひたちなか市外野に新規開院し、今年で16年目になります。循環器内科のクリニックですので、心臓病の患者さんが多いのですが、高血圧症や糖尿病などの生活習慣病や、気管支喘息や睡眠時無呼吸症候群などの呼吸器疾患の診療も行っています。また、2004年からはひたちなか市と大洗町にグループホームを併設しており、認知症高齢者介護施設を運営しています。

● 院長の横顔

1983年に筑波大学医学専門学群を卒業、1990年に筑波大学大学院を修了しています。旧株式会社日立製作所水戸総合病院や浦川会勝田病院、旧国立療養所晴嵐荘病院などに勤務し、冠動脈インターベシオン治療を専門にしていました。趣味はアウトドアスポーツですが、最近は国内の世界遺産巡りを楽しんでいます。



診察・検査の予約お問い合わせは地域医療連携室へ

(株)日立製作所ひたちなか総合病院
茨城県ひたちなか市石川町20番1
TEL 029-354-5111 (代表)

8時15分～16時30分 (平日月曜日～金曜日)
TEL 029-354-5202 (直通)
FAX 029-354-5220 (直通)

患者サポートセンターのご紹介



〈利用案内〉

相談日：月曜日～金曜日（土日祝は除く）

相談時間：8時15分～16時30分

相談受付：正面総合案内（電話での相談可）

連絡先：029-354-5111（代表）

患者サポートセンターでは、各種相談窓口が設置されております。患者さんが安心して療養生活を送れるように、看護師・医療ソーシャルワーカー・事務職員が様々な相談に応じています。

例えば、「医療費・生活費のことが心配」「介護保険の手続き方法を知りたい」「退院後の療養場所を相談したい」「カルテの開示を希望したい」など、その他、悩みや相談がある時には患者さんやご家族の方々のお力になれるように、ご相談をお受けいたします。お気軽にご相談ください。

熱中症を予防して安全に運動を楽しみましょう！

健診センター 青木 章子

運動による熱中症は、個人の条件や運動の方法次第で、誰にでも発生する恐れがあります。運動時の熱中症予防についてよく知り、安全に運動を楽しみましょう！

◎運動時の熱中症の特徴

○熱中症になりやすい環境

梅雨の中休みや梅雨明け時など、急に暑くなったときに多く発生しています。屋外だけでなく、屋内でも起こります。それほど気温が高くなくても、湿度が高いと発生しやすくなります。

○熱中症になりやすい運動

ランニングやダッシュの繰り返しで多く発生しています。防具や厚手の衣服を着用するスポーツ（柔道・剣道・ラグビーなど）でも起こりやすくなります。

○熱中症になりやすい健康状態

風邪気味などの体調不良時は注意が必要です。下痢などで脱水状態時は特に危険です。お酒をたくさん飲んだ翌日や朝食欠食、寝不足も熱中症になりやすくなります。

◎どうすれば熱中症を防ぐことができるの？

○直射日光下で、長時間にわたる活動は回避を！

○急に暑くなったときは、危険！

暑さに慣れるまでの1週間くらいは短時間で軽めの運動から始め、徐々に慣らしていきましょう。

○こまめな水分補給を！

飲料は、0.1～0.2%の塩分を含んだものが有効です。スポーツドリンクの場合は、100ml中40～80mg含有されているのが目安です。運動量が多い場合は、適度な糖分を含んでいると疲労回復に役立ちます。

○服装に注意！

できるだけ薄着で、吸湿性や通気性の良い素材を選びましょう。屋外での活動時は、帽子をかぶりましょう。

○適切に休憩を！

30分に一度が目安です。休憩は、「上昇した体温を下げる」「水分の補給をする」ことを意識しましょう。

◆◆◆ 医師異動の紹介 ◆◆◆

診療科	氏名	異動日
循環器内科	田中 喜美夫	退職（2018. 5. 31）
	松村 文明	採用（2018. 6. 1）
	平井 健太	採用（2018. 6. 1）
臨床研修医	大平 菜月	配転（2018. 6. 1）
	塚原 奈々	退職（2018. 6. 30）
	磯崎 光宏	退職（2018. 6. 30）
	大枝 由依	採用（2018. 7. 1）
	渡邊 智裕	採用（2018. 7. 1）
	多田村 明弘	採用（2018. 7. 1）
	江平 桃子	配転（2018. 7. 1）